発行：令和５年５月３１日　秋田県産米改良協会

茎数を確認し中干は適期に！

周辺ほ場を巡回し「ばか苗」の除去を
いもち病対策をしっかりと！

１　水管理

（１）活着期～分げつ期

ア 活着したら、分げつの発生を促進するため浅水管理とし、水温と地温を高め、日気温較差を大きくする。

イ このため、できるだけかん水時刻は水温の低い早朝に短時間で行うようにする。

ウ 低水温の地帯では、迂回水路やポリチューブなどを用いて積極的に水温上昇に努める。

（２）分げつ期

ア 田面の均平が悪く落水しにくい場合や排水不良田、生わら施用などによる異常還元田では、溝切りを行い排水を促す。

イ 目標穂数と同数の茎数を確保したら、ただちに中干しまたは深水処理を行い、過剰分げつの発生を抑制し、一茎の充実を図る。（有効茎決定期：6月25日ころ）

　なお、排水不良田では、気象条件によって中干しによる分げつ発生抑制が不十分となる場合がある。このような場合は、深水処理による分げつ抑制が確実である。

ウ 中干しの期間は7～10日位とし、田面に亀裂が1～2cm入り、足跡が付く程度とする。（過度の中干しは、根を痛め稲体の衰弱につながる）

エ 中干しの開始が遅れると、無効分げつが増加し、品質の低下にもつながるため、適期の中干しを行う。

オ 中干し終了後は間断かん水とし、土壌を酸化的な条件に保ち、根の伸長を促進させる。

２　実生苗の抜取りの徹底

○ ほ場を注意深く見回り条間やこぼれ籾からの苗を発見したときはすぐに抜取りを実施する。前年と異なる品種を作付けしているほ場や新規ほ場については、特に注意すること。

○ 実生苗の除去作業は、1回目を田植え後2週間頃とし、2回目をオリゼメート粒剤散布前（6月15日前）をメドに実施する。

○ 除去作業の効率化と事故の防止を図るため、複数人でお互いのほ場を確認しあって実施する。

３　病害虫防除

○ 防除が遅れないよう適時に実施する。

（１）葉いもち病

ア　余り苗はいもち病の発生要因となり周辺ほ場への伝染源となるので、直ちに泥に埋めて処分する。

イ　薬剤による防除は次により行う。

①　ファーストオリゼ、Dr.オリゼ、コープガードD12のいずれかを使用した場合

防除体系	薬　剤	施用量	時　期
地上防除	オリゼメート粒剤	2kg/10a	6月15～25日
無人航空機	オリゼメート粒剤20	1kg/10a	6月5～10日とその14日頃の2回

②　オリゼメート顆粒水和剤を使用した場合は6月の施用は不要です。

（２）ばか苗病

ア　育苗期に発生がなくても本田でばか苗病が発生することがある。発生が確認された場合は、7月中旬までに完全に除去すること。

イ　周辺ほ場の発病株を見つけた場合はJAに報告し、適切な指導を受けた後で株ごと除去すること。

ウ　除去した株は、感染源にならないよう埋没処分すること。

（３）斑点米カメムシ類防除のための除草対策

ア 農道・畦畔の草刈りは6月上旬からイネが出穂する10～15日前までに数回実施する。

イ 雑草が繁茂しないよう、除草作業は早めにを行う。

４　気象情報

気象庁の1か月予報（5/27～6/26）によると

・ 期間のはじめに暖かい空気に覆われやすいため、気温は平年並か高い見込み。

・ 降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない予報。

５　病害虫の発生予察情報

秋田県病害虫防除所が発表（5月30日）した6月の主な病害の発生予報は次のとおり。

病害虫名		発生時期	発生量（前年比）
葉いもち（全般発生開始期）		（感染時期）平年並	感染量やや多い（－）
ばか苗病		－	やや少ない（やや少ない）
斑点米カメムシ類	アカスジカスミカメ	早い	やや少ない（少ない）
（越冬世代成虫）	アカヒゲホソミドリカスミカメ	早い	やや多い　（やや少ない）

６　ほ場掲示板の設置

○ 本田の掲示板は、ほ場番号等を確認、記載のうえ、筆毎に設置してください。
（掲示板が不足する場合はお知らせください。）

たね屋から　ひとこと

○　梅雨に入ると大雨による冠水被害の発生が心配されます。冠水した場合には、速やかにＪＡへ報告しましょう。

○　ばか苗株を見つけやすい時期です。何度も巡回し抜き取りをしましょう。

次　号　本田編は、７月中旬発行予定です。